さかど

学校教育目標
・やさしく
・かしこく
・たくましく

笑顔いっぱい　学びいっぱい　みんなの学校　坂戸小

坂戸市立坂戸小学校
令和４年５月

坂戸小学校学校運営協議会　スタート！

半袖でも寒くない日が増えてきました。寒暖差に体調を崩しがちですが、早寝・早起き・朝ごはんを合言葉に、規則正しい生活をしながら、季節の変わり目を楽しんでいきましょう。

先日、学校のご近所のお宅の方と話す機会がありました。「来年度は 150 周年になるね。坂戸小は。」「うちは、自分も子供も孫もみんな坂戸小で育ったのだよ。」「子供たちから元気をもらっているから、外で挨拶させてもらっているよ。」「気持ちよく学校にくることができるよう、花壇に花を植えているのよ。花は大好きなのよ。」と、地域の中の学校であることを痛感いたしました。また、暖かい心で子供たちを見てくださっていることに感謝とうれしさでいっぱいになりました。

今年度、坂戸市内小中学校すべての学校に「学校運営協議会」が設置されました。この「学校運営協議会」の目的は、地域の未来を担う子供たちの健全な育成を目指し、学校・家庭・地域が連携・協力しながら行う「地域とともにある学校づくり」にあります。そのために、学校・家庭・地域のそれぞれの代表が集まって、ともに学校運営について考えを述べ合う会「学校運営協議会」を開催します。右の表にある方々が、この運営協議会のメンバーとなります。共に、坂戸小の子供たちの幸せと成長を考える会となりますよう、充実させていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。また、会議の後は議事録を学校ホームページに載せていきます。そちらもご覧ください。

坂戸小学校学校運営協議会

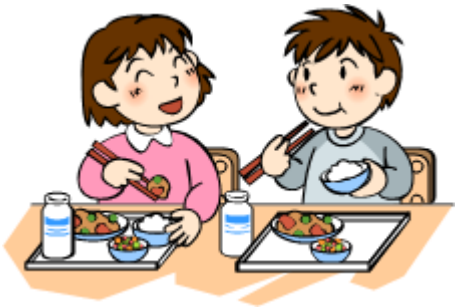
会　長	徳永　旭彦	様
副会長	村田　千鶴	様
委　員	原口　和夫	様
委　員	坂本　義夫	様
委　員	太田　久美子	
事務局	加藤　美帆	

１年生を迎えて・・・

今年度の１年生１０３名を迎えて、６７０名の子供たちで学校生活をしています。４月２２日に「１年生を迎える会」を行いました。校庭で行う予定でしたが、あいにくのぬかるんだ校庭で使えず、Meet を使って画面越しでの「迎える会」となりました。

多目的ルームに集まった１年生は、２年生の作ってくれた冠を得意そうにかぶり、静かに話を聞いたり、歌を歌ったりすることができました。入学式の式辞で話した「おはよう、ありがとう、ごめんなさい」の３つの言葉もよく覚えていて、感心しました。

その日から、給食も始まり小学校生活も本格的になりました。給食の配膳も食事もルールやマナーを守っておいしそうに食べている１年生を見て、こちらも笑顔になりました。「早く食べたかった。」「１時間目からお腹がすいていた。」など、楽しみにしていたことも伝えてくれました。



連休明けからは、午後の授業もスタートし、縦割り活動（１年生から６年生までの異年齢集団での活動）も始まります。どうぞ、頑張っている子供たちを応援するサポーターになりきって、気持ちよく学校に送り出してやってください。

5月の行事予定	※詳しくは学年だよりをご覧ください
9日(月)引き渡し訓練5校時 11日(水)PTA 会費集金日 12日(木)委員会活動　交通安全教室 3.4 年 13日(金)埼玉県学力学習状況調査 4.5.6 年 交通安全教室②1.2 年 宿泊学習説明会(5年)　15:45～ 16日(月)はじめまして集会5校時	19日(木)全学年5時間 20日(金)短4　個人面談① 24日(火)短4　個人面談② 25日(水)短4　個人面談③ 26日(木)クラブ活動 27日(金)短4　個人面談④ 31日(月)短4　個人面談⑤

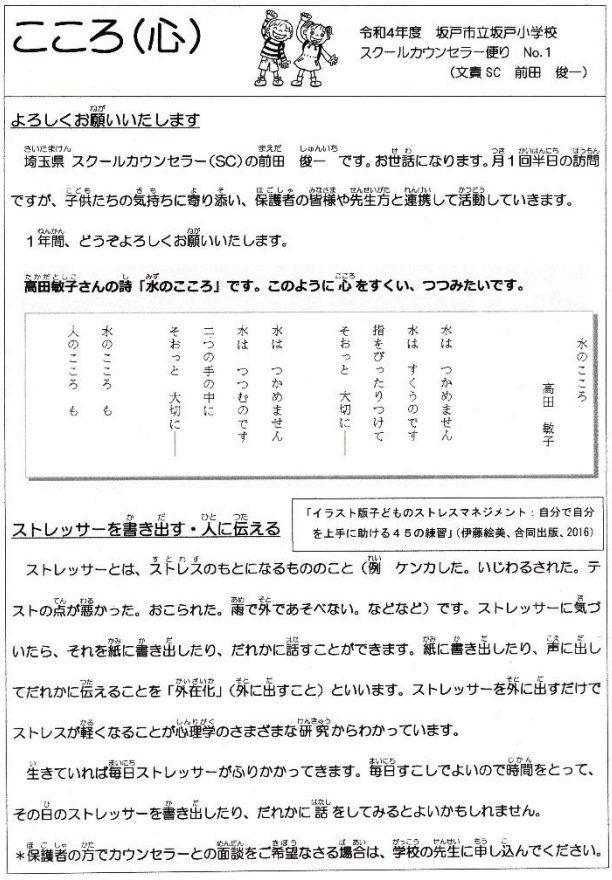
「どうしたの？」「どうしたいの？」「どうしてほしい？」の言葉がけ

学校の教育活動の中に教科指導や生徒指導といった「指導」という場面がたくさんあります。皆さんがイメージする「生徒指導」とはどういうものでしょうか。決まりを強制的に守らせる、叱責されるなど、あまり気持ちのいい様子ではないイメージではないでしょうか。

本来「生徒指導」という指導の目的は、子供たちの自立を目指すもので、「自己指導能力」という力を育成するための指導であり、子供自身が自分で「自己選択」しながら「自己決定」する場を多くもち、たくさんの失敗を通じて学んでいくことを目指しています。子供は学校という安全な場所で安心して失敗していいのです。いろいろな小さな失敗をすることで、相手の気持ちを理解したり、自分の行動を反省したりできます。

ですから、何かおかしいなと思った時には「どうしたの？」と声をかけ「どうしたいの？」と自己決定させ、「どうしてほしいかな？」と自己選択させます。例えば泣いている子供がいます。「どうしたの？」と声をかけると「友達とけんかした」と言います。「どうしたいの？」と聞けば、「あやまりたい。けど・・・」と思いを伝えてくれます。その時に「先生には、どうしてほしい？」と問いかけると「そばにいてほしい」や「一緒についてきてほしい」「大丈夫。自分でいく。」など、自分で自分の行動を決めます。この積み重ねが、子供の経験からくる学びを充実させてくれます。

家庭ではどうでしょう。先回りしすぎてはいませんか？なかなか語らない子供たちもたくさんいます。子供の言葉を引き出すために「待つ」こと（大変ですが…）に挑戦してみてください。おうちの方が、「話を聞いてくれる」と感じた時から、子供は話すようになります。もしかしたら、「書く」ことで伝えてくれる子供もいるかもしれません。子供の自立を助けるために、ご家庭でも「どうしたの？」「どうしたいの？」「どうしてほしい？」の言葉を使ってみてください。



こころ(心)

令和4年度　坂戸市立坂戸小学校
スクールカウンセラー便り　No.1
（文責 SC　前田　俊一）

よろしくお願いいたします

埼玉県 スクールカウンセラー(SC)の前田　俊一　です。お世話になります。月1回半日の訪問ですが、子供たちの気持ちに寄り添い、保護者の皆様や先生方と連携して活動していきます。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

高田敏子さんの詩「水のこころ」です。このように心をすくい、つつみたいです。

水のこころ
高田　敏子

水は　つかめません
水は　すくうのです
指をぴったりつけて
そおっと　大切に――

水は　つかめません
水は　つつむのです
二つの手の中に
そおっと　大切に――

水のこころ　も
人のこころ　も

ストレッサーを書き出す・人に伝える

「イラスト版子どものストレスマネジメント：自分で自分を上手に助ける４５の練習」(伊藤絵美、合同出版、2016)

ストレッサーとは、ストレスのもとになるもののこと（例　ケンカした。いじわるされた。テストの点が悪かった。おこられた。雨で外であそべない。などなど）です。ストレッサーに気づいたら、それを紙に書き出したり、だれかに話すことができます。紙に書き出したり、声に出してだれかに伝えることを「外在化」（外に出すこと）といいます。ストレッサーを外に出すだけでストレスが軽くなることが心理学のさまざまな研究からわかっています。

生きていれば毎日ストレッサーがふりかかってきます。毎日すこしでよいので時間をとって、その日のストレッサーを書き出したり、だれかに話をしてみるとよいかもしれません。

＊保護者の方でカウンセラーとの面談をご希望なさる場合は、学校の先生に申し込んでください。

安全の合言葉
飛びだすな　車に注意　右・左

お知らせ　学校電話対応　7:45～18:00　この時間帯以外は留守番電話となります。